

「第1期日野市こども計画」の基本理念の検討

こども基本法においては、全てのこどもについて、その年齢及び発達に応じて、その意見が尊重され、その最善の利益が優先して考慮されることが基本理念として掲げられていることから、「第1期日野市こども計画」の基本理念についても、こども・若者の意見を可能な限り反映し、設定します。

(令和5年度実施の「子ども本人アンケート」結果より)

小学5年生の調査では、学校や放課後、**自宅での時間を楽しんでいる**子どもが多く、**安心して暮らしている**と感じる割合も高い。中学2年生になると、学校での楽しさは減少するが、放課後や自宅での楽しさは依然として高い。高校2年生相当の調査では、**将来の自分をイメージ**できる子どもが多く、**安心して暮らしている**と感じる割合も非常に高い。全体的に、子どもたちは**「好きなことをしながら生活したい」**と考えており、**社会の理解促進**などが求められています。

(令和6年度実施のインタビュー結果より)

- **家にいる時が楽しい。**
- **大人へは意見を言っている。**
- 他の人が話をするとき自分は話せない。
- **自分の本音**を話せない。(家庭環境も影響) など

(キーワード)

- 子どもは権利の主体であるという認識
- 自己肯定感
- 子どもの最善の利益
- 子どもの権利の保障
- 意見表明と社会参画
- 子どもの健やかな成長と自立

8月21日の支援会議で出た意見(抜粋)

- 子どもの多様性を考えると、最善・一番といった言葉は好ましくない
- 学校教育基本構想の「すべての“いのち”がよろこびあふれる今と未来をつくっていく力」があり、学校と子育ては視点が違うかもしれないが、同じ子どものためではあるので、そちらに沿った基本理念がいいのでは。
- ウェルビーイングと無理に横文字使わなくていいのでは
- ウェルビーイングは体と心の両方の健康という意味合いが強く、幸福感とイコールとは言えない。ウェルビーイングを使うなら整理が必要
- 「子どもの個性と創造性を伸ばすことができ」、は一見いいが、大人の押し付けのような気がする、個性は伸ばさないといけないものなのか
- 「育ち、育てることができる」は、子ども視点もあり、大人の視点もありでいいのでは
- 子どもが主語となるような基本理念がいいのでは
- 鳥生先生の講演会でも大人が権利を実感することが重要との話があり、「子ども一人ひとり」は子どもという文言は必ず入れなければいけないのか

《事務局案》

- ① 一人ひとりの権利が尊重され、子ども・若者が自分らしく健やかに育ち、安心して子育てできるまち
- ② すべての人の権利が尊重され、一人ひとりの子ども・若者が自分らしく健やかに育ち、安心して子育てできるまち